

会員だより

お池にはまって

さあ大変

6月の乗鞍高原はま
だオフシーズンで観光客
はほとんどいない。大自
然の景色と源泉かけ流し
の温泉を楽しみたくてド
ライブ旅行に出た。前日
の雨も上がり、清冽な空
気に満ちた森の中の木道
を歩いて行くと、「牛留
池」に着いた。溶岩台地



を映して美しい。幹が円
形に変形した木や緑に混
じる白樺の白い幹の色も
目を引いた。カメラを抱
え木々の間から見える池
を狙って、木道からちよ
つとはずれた地面に踏み
込んだところ、底がなか
った。地面に見えて地面
ではなく森に降った雨を
たっぷり溜め込んだ湿地
だったのだ。
踏ん張るところも掴まる

ものもなく、横倒しに
転んでカメラもろとも湿
地の中にはまってしまっ
た。大声を出して夫を呼
んだ。引っぱり上げても
よかったが、木屑を含ん
だ泥水で全身泥だらけ。
水を含んだ衣服のなんと
重いこと。一生に一度あ
るかないかのシャッター
チャンスだったのにそれ
どころではなかったと笑
い合った。ハンカチでカ
メラの汚れをふき取った
が作動しなかった。

どうしようもなく連泊
しているホテルに戻るこ
とにした。車を汚すから
どこも触るなど言われて
後部座席に敷き詰めたブ
ルーシートの中に入れて
た。ホテルの庭の散水
ホースで全身水をかぶっ
て汚れを落としてから、
やっと温泉に浸かること
ができた。乳白色のお湯
で体の芯まで温まり気持
ちがよかった。ホテルの
若い女性スタッフが「忘
れられない思い出になり
ますね。」と笑った。そう
なると気がかりは作動し
なかつたカメラのこと。
しばらくするとスイッチ
は入るもののレンズ装着

不可の警告マークが出て
シャッターが下りない。
「本人が怪我したわけで
もなし。カメラは修理し
たら元に戻る」と言われ
まっ、それはそうだと納
得した。 S・N

昔昔の電話の話



私が電話局に勤めたの
は、昭和15年(1940
年)のことです。当時、電
話事業は郵便事業ととも
に国の事業で、所管は通
信省、私たちはいわゆる
「官吏」だったのでした。

当時、大阪の電話局は
20あまりの分局があつ
て、約半分くらいの局は
自動化(自分がダイヤル
して掛けられる方式)さ
れていました。後半分
は手動式で加入者が受話
器をあげると、交換手が
「何番へ」と応答して相
手番号を聞き接続してい
たのです。従って電話事
業には多くの人手、特に
若い女性が必要とされて
いました。私が3ヶ月の
養成期間を経て配属され
たのは大阪南分局でした。
南分局は当時すでに自動
化されていました。大
阪の公衆電話の接続を受
け持っていました。当時

の公衆電話は交換手が応
答して通話先を聞き、接
続します。相手方が出る
と、交換手が「お繋ぎし
ますから、5銭、お入れ
ください」と言ってお金
の投入音を確認して接続
しました。5銭で3分間
話が出来ます。3分経つ
と交換手が割り込んで、
「続けてお話しなさいませ
か」と聞き続けるなら再
び5銭いれてもらいます。
始めから話が長くなると
思うときは、始めに10銭
入れておくことも出来ま
した。その違いは、5銭
は、「チーン」、10銭は「ブ
ーン」というような音で
した。

また、それぞれの局には
手動式の局から自動式の
局へ接続する交換台、自
動式の局から手動式の局
へ接続する交換台もあり
ました。また市外通話は
すべて手動式でした。中
央局には記録台という市
外通話受付専門の台があ
り、受付時間、発信者の
番号、通話先の番号を交
換証という用紙に記入し
それぞれ接続台へと運
びます。北海道から九州
までそれぞれの担当の台
があるのです。各県の主



要都市に
は大きな
局があり、
小都市は
その局か
ら中継さ
れます。地方の小さい局
になると2中継(2つの
局を中継する)のもあり
ました。限られた回線で
接続するので、2・3
時間ばかりです。2・3
時間もかかります。7・8時間
もかかることも珍しくあ
りませんでした。市外の
交換台は、一方の端から
眺めても向こう側の端は
見えないくらいです。交
換証も気送管という真空
式の管を使って送ってい
ました。また昔はローラ
ースケートで運んでいた
という話も聞きました。

私が出た。瞬間に繋が
る今から考えると想像も
出来ないことでしょうね。
私が就職してから電話は
着々と自動化が進み、昭
和20年ごろにはほとん
どの局が自動式となりま
した。 F・M

ときめきの世代？



先日、ある友人の文中の「50代にはときめいて、
60代に花開き、70代は実を結び、80代は動ける
が花」という文章が心に響いた。私は、この春三月は
「相撲ラブ高槻」を自称し、四月には偶然阪急梅田
ギャラリーで目にした、池田理代子さんのアニメ「ベルサイユのば
ら」の世界に浸り、五月は、来年100周年を迎える宝塚歌劇を。
そして今、日々阪神タイガース戦にくぎ付け、猛暑の中甲子園にま
で行ってしまった。

昨日のニュースで日本人の女性の平均寿命は85歳を越え世界で
一番になったそうである。人生は長くなり、友人の文章は当を得て
いるような気がした。古来「60の手習い」という言葉もある。私は、
リタイアしてからパソコン教室に通い、30年ぶりの針を持つ手芸、
文章投稿グループ。どれも、まだまだ花も開かず実も結ば
ずだが、心ときめく世界である。さしずめ、私は「50代のとき
めきから、80代の動けるが花！」に跳んでしまったということに
なるのだろうか。花も実もある時を目指したいと思います。 Y・I